

【資 料】

看護技術教育における原理・原則の概念に関する検討

—感染予防に関する基礎看護技術に焦点を当てて—

濱 田 佳代子*

【要 旨】

本研究の目的は、感染予防に関する基礎看護技術について、原理・原則の概念を文献検討より明らかにすることで、看護技術教育における原理・原則の構造化をはかり、体系的教育に向けての一資料とすることである。17冊の書籍を対象とした文献検討を行った結果、感染予防に関する基礎看護技術の原理とは、関連諸科学の基礎的理論に基づく知識で、原則とは、看護技術を用いる際の安全・効果を満たす要件を含む基本的なきまりであった。しかし、原理・原則の記載がされた文献は半数程度であり、原理・原則の正しい概念に基づき説明された文献は少なかった。今後は、それらを体系的に整理され、記述されることが求められる。

【キーワード】 看護技術教育、原理、原則、感染予防

はじめに

看護基礎教育において、技術教育は、単に1つの方法の習得や、手順の習得を目的としているのではなく、それを理解するための根本となる原理・原則が組み込まれることが必要であり、知的な思考過程を経て技術を学ぶことが重要であると言われる（山崎，長戸，2002）。また、技術は、それぞれの原理・原則をふまえた練習を反復することによって習得されると言われる（内藤他，2000）。

このように、看護技術教育において原理・原則の重要性を述べる見解は多く見受けられるが、この原理・原則がどのような内容を指すのか、統一的な見解は見当たらず、個々に解釈され伝えられている現状である。看護技術において何が原理で、何が原則なのかが、十分整理されないままに伝えられることは、学習者に原理・原則の概念の混乱を生じさせ、理解すべき基盤となる内容の意味や価値に対する理解を不十分にしてしまう危険性を孕んでいる。看護技術教育において、原理・原則の概念を正しく理解できるように、概念を整理することは、科学的思考過程を経た看護技術の習得を可能にし、「学習された内容が単に機械的な暗記にとどまる」「具体的な場面に応用できない」といわれる諸問題に対する解決の糸口となるのではないかと考えられる。

筆者は、過去に、基礎看護技術のテキスト5冊を対象に調査した結果、基礎看護技術における原理の

概念の用いられ方には問題はなかったが、原則の概念の用いられ方には問題があり、別の概念の混在（注意概念など）が明らかになったことを報告した。用いられ方に問題があるとは、その用語の本来の語意や語義に照らし合わせた場合、用いられ方が正しい語意や語義として用いられていないということである。そして、今後、看護技術において何が原理で、何が原則で、それをどのように用いることが応用的なのかといった内容を整理し、明確にしていくことの必要性を提言した（濱田，2001）。同じ看護教育の立場から、原理・原則の確立や追求が重要であるとの見解を示す文献（田島，1996；山内，1998）はあるが、原理・原則の概念自体に関する研究は、筆者の検索した限りでは存在しなかった。

そこで、基礎看護技術における原理・原則の概念を文献検討し、看護技術教育における原理・原則の構造を検討した。本稿では、筆者が行った過去の調査において原則の用語が一番多く用いられていた「感染予防」に関する基礎看護技術に焦点を当て、過去10年間の文献を対象として調査することとした。

研究目的

感染予防に関する基礎看護技術について、原理・原則の概念を文献検討より明らかにすることで、看護技術教育における原理・原則の構造化をはかり、

* 日本赤十字広島看護大学

体系的教育へ向けての一資料とする。

用語の定義

原理：ものの拠って立つ根本法則，他のものがそれに依存する本源的なもの，ある領域の事物の根本要素（新村編，1998）。事象やそれについての認識を成り立たせる，根本となるしくみ（松村編，1999）。

原則：人間の活動の根本的な規則，基本的なきまり（新村編，1998）。多くの場合に於てはまる基本的な規則や法則（松村編，1999）。共通に適用される法則（大野，浜西，1981）。

感染予防：病原体が体内に侵入して発育ないし増殖することを感染といい，それを予防すること（内菌編，小坂編，2002）。

看護技術：看護の概念を具現し，看護方法を実践する，科学的原理に基づく看護行為の総称（内菌編，小坂編，2002）。

基礎看護技術：看護基礎教育において，基礎看護学に相当する領域で教授されている看護技術の基礎的なものである。コミュニケーションなどの共通基本技術，食事や排泄などの生活援助技術，与薬などの診療補助技術があり，各看護学における看護技術を支える基盤となる。

研究方法

1. データ収集

1992年から2001年までの10年間に国内で出版された書籍で，タイトルに「基礎看護技術」が含まれる書籍を検索した。この期間に改訂されている場合は，最新版を取り上げることとした。検索の結果，20冊の書籍が出版されていた。そのうち，感染予防に関する基礎看護技術の記載がなかった3冊の書籍を除いた17冊を今回の研究対象とし，文献研究を行った。

2. 分析方法

感染予防に関する基礎看護技術に相当する記載内容を抽出し，原理・原則が記載された内容があるか検討した。原理・原則が記載された内容がある場合，その内容が記述された箇所の見出し用語またはその内容を示す簡潔な用語（項目）とその数（件数）を調査した。その際，原理・原則と明示されていた場合とされていなかった場合があり，明示されていた場合は，記述された内容について文脈から意味の類似性に注目して分類した。明示されていなかった場合は，用語の定義に合致する内容が記載されていた

文章を抽出して，意味を検討し分類した。原理・原則が記載された内容がない場合，何が書かれていたか記述概要を整理した。

結 果

1. 原理・原則の記載内容の有無

対象文献17冊のうち，原理・原則の記載のあった文献は10冊であった。そのうち，原理・原則と明示されていた文献は8冊，明示されていなかった文献は2冊であった。原理・原則と明示されていた文献8冊のうち，原理のみ記載のあった文献は1冊，原則のみ記載のあった文献は6冊，原理・原則の記載のあった文献は1冊であった。原理・原則と明示されていなかった文献2冊はともに原理のみの記載であった。記載結果について，項目およびその件数の内訳は，表1に示したように，原理の記載は5件，原則の記載は8件であった（表1）。

表1 原理・原則の記載結果（項目および件数）

項 目			件 数
原 理 (明示あり)	感染予防の原理		2
	消毒・滅菌の原理		1
原 理 (明示なし)	感染の3要因		1
	感染予防と発病防止		1
原 則 (明示あり)	感染予防の原則		5
	具体的な方法に関する原則	無菌操作の原則	1
		消毒滅菌法の原則	1
		隔離法の原則	1

2. 原理・原則が明示されていた場合の記載内容

原理を抽出したところ，「感染予防の原理」「消毒・滅菌の原理」の記載があった。「感染予防の原理」の記載内容は，【感染予防の成り立ち】【感染予防の成立要因】を意味しており，【根本となるしくみ】【根本要素】であった。「消毒・滅菌の原理」の記載内容は，【消毒・滅菌の成り立ち】を意味しており，【根本となるしくみ】であった。つまり，原理の内容は【根本となるしくみ】【根本要素】で，用語の定義に合致していた。

原則を抽出したところ，「感染予防の原則」「無菌操作の原則」「消毒滅菌法の原則」「隔離法の原則」の記載があった。その内の「無菌操作の原則」「消毒滅菌法の原則」「隔離法の原則」の3件は，感染予防の具体的な方法に関する原則であった。「感染予防の原則」の記載内容は，既述した「感染予防の原理」と同様に，【感染予防の成立要因】を意味しており，【根本要素】と理解できるものであった。

表2 原理・原則の記載内容（原理・原則の明示あり）

項 目		件数	記 載 内 容	文脈から捉えた意味	
原 理	感染予防の原理	2	感染拡大には感染源、宿主、感染経路の3つの因子を必要とする。感染予防するにはこれらの3つの因子に対して、①消毒や滅菌によって感染源となる病原体を除去すること②健康的な日常生活の維持と予防接種や抗生物質の投与などによって個人の抵抗力を増強すること③隔離や清潔不潔の区画設定などによって感染経路を遮断することが必要である	感染予防の成り立ち	根本となるしくみ
			病原体の除去、侵入経路の遮断、個体の抵抗力の増強	感染予防の成立要因	根本要素
理	消毒・滅菌の原理	1	消毒および滅菌は病原体の原形質に不可逆性の変化を起こさせることによって成立する。病原体は単細胞の生物で、細胞の主要成分である原形質の微妙な働きによって生命を保ち、活発に増殖している。(中略)そこに外部から熱や薬品を用いて原形質内の蛋白質を凝固させると原形質はその機能を停止し、病原体は破壊されて死滅する	消毒・滅菌の成り立ち	根本となるしくみ
原 則	感染予防の原則	5	病原体の除去、侵入（感染）経路の遮断、（個体の）抵抗力（免疫力）の増強	感染予防の成立要因	根本要素
	無菌操作の原則	1	滅菌物を患者に用いるときは、滅菌鉗子や鑷子を用いるか、滅菌ゴム手袋を装着して取り扱う	安全な操作方法	基本的なきまり
			滅菌鉗子立ての鉗子を取り出すときと戻すときは、鑷子の先端を閉じて、真すぐ上に取り出す。又は垂直に鉗子立てに入れる		
			鑷子を握った部分が鉗子立ての中に入らないように鑷子の外端を握る		
			薬液に浸った滅菌鉗子を取り出すときは、鉗子の先端がいつも下方になるようにして握る		
			滅菌物を置く台は完全に乾いていなければならない		
			包装したものを開くときは、敷布の折り返し部分の中に手を挿入して滅菌物に触れないようにする		
			一度外に取り出した滅菌物は、使用しなかった場合でも決してもとの容器に戻してはいけない	注意事項	注意
	消毒滅菌法の原則	1	消毒薬の使用にあたっては、消毒物品を十分消毒液に浸さなければならない	効果的な消毒	基本的なきまり
			器具を煮沸消毒する場合は、湯の中に十分物品が浸っているようにする		
		ガーゼなどを蒸気消毒する場合は1包があまり大きかったり、また堅くつめすぎると熱の通りが悪くなり、消毒の効果が減少するので注意する	注意事項	注意	
則	隔離法の原則	1	隔離法を行うにあたっては微生物学、消毒・滅菌の知識、病原体の体内への侵入経路と体外への排泄経路などを十分知っていることが第一の原則である	諸科学の基礎的理論	根本となるしくみ
			隔離の必要な患者（伝染病の疑いまたは診断の確定した患者、白血病や免疫不全症候群など）は、ただちに規定の場所に隔離しなければならない	隔離法の適用	
			患者に接するすべての人、すべての物品に隔離法を適用しなければならない		
			ユニットに入るときはガウンとマスク、帽子を着用し、必要時は履物を交換するか、または消毒薬を浸したマットで履物を消毒して出入りする	安全な実施方法	基本的なきまり
			手は伝染病を伝播するもっとも手近な道具であるから手洗いを完全に実施する。ユニット内に流しのない場合は消毒液を入れた洗面器を置き、手拭きは洗面器の中に入れておく。一定時間ごとに消毒液を新しくする		
			患者の分泌物・排泄物は新しいほど危険であるから、なるべく速やかに規定に従って処理する（即時消毒という）		
			隔離が解除されたら、患者の使用していた一切の物品を消毒する（終末消毒という）		
		隔離法は患者にとって不便な好ましくないことであるから、感染予防の条件がゆるす限界内で、身体的・精神的に良好な環境を整え、できるだけ気分のよい方法でケアをする	安楽な実施方法	配慮（注意）	

「無菌操作の原則」の記載内容は、【安全な操作方法】と【注意事項】を意味しており、それぞれ【基本的なきまり】と【注意】であった。「消毒滅菌法の原則」の記載内容は、【効果的な消毒】と【注意事項】を意味しており、それぞれ【基本的なきまり】と【注意】であった。「隔離法の原則」の記載内容は、【諸科学の基礎的理論】【隔離法の適用】【安全な実施方法】【安楽な実施方法】を意味しており、【根本となるしくみ】【基本的なきまり】と【配慮（注意）】であった。つまり、原則の内容は【根本となるしくみ】【根本要素】【基本的なきまり】【注意】【配慮（注意）】の意味を含んでいた（表2）。

3. 原理・原則が明示されていなかった場合の記載内容

原理・原則と明示されていなかった文献2冊はともに原理のみの記載であった。「病原体の除去、侵入経路の遮断、個人（個体）の抵抗力の増強」は、「感染の3要因」「感染予防と発病防止」として整理されていたが、これらは【根本となるしくみ】に相当し、原理に当たるものであった（表3）。

4. 原理・原則の記載のない文献の記述概要

原理・原則の記載のない文献は7冊（各文献をA～Gで示す）であった。そのうち、感染予防に必要な基本的知識の記載があったのは4冊、無菌操作や手洗いなどの具体的な実施方法の記載があったのは7冊、注意点の記載があったのは3冊であった。このうち、感染予防に必要な基本的知識・具体的な実施方法・注意点についてすべて記載があったのは3冊であった。記載内容の大半は具体的な実施方法や手順であったが、中には、感染予防の基本的知識に重点が置かれ、院内感染・隔離等に関する知識や重要概念・用語の説明などの具体的な記載があったうえで、手順・方法が簡単に記載されたものもあった（表4）。

表4 原理・原則の記載のない文献の記述概要

* A～Gは文献を示す。記載があるものに●印

記載内容	A	B	C	D	E	F	G	文献数
感染予防に必要な基本的知識	●			●	●	●		4
具体的な実施方法（手順）	●	●	●	●	●	●	●	7
注意点	●			●		●		3

考 察

1. 原理・原則の概念

本来、用語の異なる「原理」と「原則」は明確に区別され、それぞれの概念を正確に捉える必要がある。

原理とは、事象やそれについての認識を成り立たせる根本となるしくみ、ある領域の事物の根本要素という語意をもつ用語である。今回の結果から、感染予防に関する基礎看護技術の原理は、【根本となるしくみ】【根本要素】からなる概念であることが明らかにされた。白井氏は、『一般基礎看護法』のまえがきで、「基礎看護法には解剖生理、化学、細菌学、薬理学、物理学、社会学、心理学等の基礎的原理が織込まれて応用されなければなりません」と述べていた（白井、1955）。このことから、原理は看護技術に必要となる諸科学の基礎的理論に基づく概念であると言える。

また、原則とは、基本的なきまり、共通に適用される法則という語意をもつ用語である。今回の結果から、現状の記述には感染予防に関する基礎看護技術の原則は、【根本となるしくみ】【根本要素】【基本的なきまり】【注意】【配慮（注意）】からなる概念が含まれていることがわかった。しかし、この内容には、【根本となるしくみ】【根本要素】という原

表3 原理の記載内容（原理の明示なし）

項 目	件数	記 載 内 容	文脈から捉えた意味	
感染の3要因	1	感染は、感染源（病原微生物）、感染経路（侵入経路）、感受性（個体の抵抗力）の3要因がそろった場合に起こる。したがって感染を予防するには、この3要因の1つ以上を断ち切る必要がある。つまり、①病原体の除去、②病原体の体内への侵入経路の遮断、③個体の抵抗力の増強を図ることで感染が防止される	感染予防の成り立ち	根本となるしくみ
感染予防と発病防止	1	病原体は体表または粘膜面へ付着しなければ感染は成り立たない。阻止する方法として以下のことが考えられる。また、たとえ感染しても必ず発病するとは限らない。発病を防ぐ方法も重要である。(1)病原体の除去（中略）(2)生体への病原菌の侵入経路の遮断（中略）個人の抵抗力増強と発病予防	感染予防（発病防止）の成り立ち	根本となるしくみ

理の概念が含まれていたり、【注意】【配慮（注意）】の概念が含まれていたり、原則の本来の概念ではない別の概念が含まれていた。特に、「感染予防の原則」の内容は、本来は原理である内容であるにもかかわらず、原則として記載されているものが5件もあるという結果から、原則の内容は統一性が乏しいと考えられた。つまり、文献上、原理・原則の正しい理解が困難な記述であることが示唆された。

感染予防に関する基礎看護技術について、感染の定義や種類、感染拡大となる因子、感染予防の意義や目的、感染に関する諸科学の基礎的理論など、これらの基本的知識は看護技術の基盤となる原理であると理解できる。そして、感染予防の具体的方法に看護技術を用いて実施する際、基本的なきまりが存在するが、これが原則であると理解できる。

今回の結果で、原則は、対象者の安全・安楽・効果を最大限に得ることを目的とした内容で構成されていることが明らかとなった。この中で、安全・効果は、基本的なきまりに関する内容であるが、安楽は配慮（注意）に関する内容であり、安楽を得ることを目的とした内容は、用語の定義に照らすと、原則の内容とは区別されると考えられた。つまり、原則という場合、安全に関する内容は含まれるが、安楽に関する内容は今回の結果から考えると含まれない。

しかし、看護技術の実施行為の原則として、安全の技術、安楽の技術、自立を助けるための技術があり、優先順位は安全・安楽・自立の順に考えるが、より安楽という原則は常に存在しなければならないし、できるだけ安楽性を考慮するのが看護の本来の使命であると言われている（杉野，1998）。今後、安楽が用語の定義に照らしても原則と判断されるためには、共通して適用できる基本的なきまりとしての内容で記述されることが求められる。自立に関する内容については、今回の感染予防に関する基礎看護技術では見当たらなかったが、医療の主体である対象者の自立を考えた場合、今後の課題である。

看護技術は、対象者に共通性のある事柄を原則とし、それに基づいて実践される手段と考えられる。関連諸科学の基本的知識に基づく原理を十分理解し、異なるあらゆる場合に共通に適用できる原則に基づいて、具体的な行動をとることができるよう、知的な思考過程を経た看護技術の習得につながる道筋を整える必要がある。原則は、その看護技術を用いる際の安全・効果を満たす要件となる。このことから、看護技術教育において、原理・原則は重要な位置づけにあると考えられた。感染予防に関する基

礎看護技術は、患者の安全を守るために重要な基本技術である。しかし、原理・原則の重要性が強調される中、今回の結果からは、原理・原則の記載があったのは17冊中10冊と、半数程度であり、今後は原理・原則の正確な概念に基づいた記述がなされることが求められる。

2. 共通に適用可能な原則の確立

看護技術の習得に関して、単に手先が覚えることと、知的な思考過程を経て技術を学んだうえで手が覚えることとは違い、訓練と教育との違いについての指摘があるように（山内，2001）、技術の習得は、教育として具現化する方法を持つことが必要である。そのためには、原理・原則を理解し、それに基づき実践していく方法論が示されなければ、机上の空論に終わる。いくら一般的な実施方法や手順が習得できていたとしても、単に機械的な暗記にとどまるのでは意味がない。

今回の結果からは、感染予防に関する基礎看護技術における技術内容は、無菌操作、ガウンテクニック、手洗いが主流であった。これらは侵入経路の遮断を目的とした技術内容である。例えば、感染症をもつ患者に対して他への伝染を防止するための隔離と、易感染状態の患者に対する予防的隔離とは、区別して考えられなければならない。「隔離法の原則」の中で「即時消毒」「終末消毒」の内容が見られたが、この原則は感染症をもつ患者の場合は適用するが、易感染状態の患者の場合は適用しないといった、原則によっては適用するかしないかを判断しなければならない場合がある。今回対象とした文献の範囲内では、ガウンテクニックにおいて汚染区域に入る場合と清潔区域に入る場合とで例を図示しているものや、手順等の違いを明示した記載はあった（犬塚，1996；薄井，1997；坪井，松田，1997）。しかし、そこに原則の適用についてまでは記載されていなかった。ほとんどの文献では、ガウンの着方と脱ぎ方に区別されていた。このことは、手順に沿った学習方法の習得としては効果的な文献は多いが、どんな対象者においても共通に適用できる原則となっていないため、原則の適用に混乱を招く危険性があると考えられる。この場合、対象の条件を明確にしたうえで原則として記載するほうがよいと考えられた。知的な思考過程を経て技術を習得できるような看護技術教育であるためには、今後、多様な個別な状況においても共通に適用できるような原則の確立をすることが課題である。

3. 倫理的基盤を持つ原理の確立

看護技術には、それを支える倫理的要素である看

護の哲学を欠かすことはできないという見解(杉野, 1998)や、看護技術の根底にあるものが人間愛に基づいて行うというところに、一般論としての技術との違いがあるとの見解(氏家, 2000)はある。しかし、こういった看護技術の独自性を強調する一方で、それぞれの看護技術のなかの倫理性を、看護技術としてどのように具現化するかを明確に記載された文献は見当たらなかった。この点については、看護教科書を対象に看護技術の概念の変遷と発達を研究された中に、「看護技術のなかの人間の側面である倫理性が、現実的で具体的な対象に対する看護技術の実践のなかで、どのようにして具体化されていくことなのかについて全く触れられていない」ため、「人間性に関する主張が教科書を通してどのように具現化されていくと看護技術力の育成に結びついていくのかさえ、見えないのが現状である」ことが指摘されていた(稲葉, 2000)。分析結果では、対象者の安楽や自立の記述が見られなかったが、これらは対象者の人間性や苦痛を扱うものであり、今後、看護技術の原理を確立していく上で、倫理的要素をどのように組み込んでいくかは、大きな課題である。その根本を、人間愛などの抽象的な概念に委ねるのではなく、原理として倫理的要素によって裏付けることで、看護者としての姿勢や行為について、統一的理解を可能にすべきである。例えば、インフォームド・コンセントは、医療倫理としても医療行為の実施においても非常に重要な概念である。看護においても、看護技術の実践の際、対象者に説明をし、目的等の理解が得られたうえでの同意を得るという行為があるが、それがどんな倫理的要素に裏付けられているのかという根本となるしくみを、原理としていかに具体化するかが重要である。

結 論

- 1) 感染予防に関する基礎看護技術における原理とは、看護技術に必要となる諸科学の基礎的理論に基づく知識であった。
- 2) 感染予防に関する基礎看護技術における原則とは、看護技術を用いる際の安全・効果を満たす要件を含む基本的なきまりであった。
- 3) 原理・原則の記載のある文献は半数程度であり、原理・原則の正しい概念の理解に基づき説明された文献は少ないことが明らかになった。
- 4) 原理・原則に基づいた看護技術の習得を可能にするためには、看護技術を支える知識となる原理の記載、行為の基本的なきまりである原則の記載が不可欠であり、それらを体系的に整理さ

れ記載されることが今後の課題である。

おわりに

本稿では、感染予防に関する基礎看護技術について、看護技術の原理・原則の概念を文献検討し、看護技術教育における原理・原則の構造を検討した。今回得られた結論は、特定の範囲における調査結果であり、これらを一般化するには限界がある。また、分析の過程においては、筆者が独自で行ったため、信頼性に限界がある。今後は、他の援助に関する基礎看護技術についても検討をすすめ、科学的思考過程を経て看護技術を習得できる看護技術教育となるよう、その根本となる原理・原則の確立に向けて取り組む必要がある。

本研究は、平成13年度日本赤十字広島看護大学共同研究費の助成を受けて実施した。

文 献

- 縣勢津子, 山口瑞穂子 (1992). 図解・基礎看護技術必携 目でみる看護手順. 東京, 学習研究社.
- 縣勢津子 (1994). 基礎看護技術のポイント102. 東京, 医学芸術社.
- 濱田佳代子 (2001). 看護における“原理”“原則”の概念の用い方に関する問題—基礎看護技術に焦点を当てて—. 日本赤十字広島看護大学紀要, 1, 59-67.
- 稲葉佳江, 花岡真紀子 (2000). 看護技術の概念の検討. 教授学の探究 第17号, 65-88.
- 犬塚久美子 (1996). ひとりで学べる基礎看護技術Q&A. 東京, 看護の科学社.
- 石川夏子, 松永保子他 (1998). 基礎看護学2 (基礎看護技術). 東京, 医学芸術社.
- 伊藤明子 (2001). 新看護学7 基礎看護〔2〕 基礎看護技術. 東京, 医学書院.
- 清川美和, 河地加津枝 (2001). ニューワークブック 基礎看護技術. 東京, 医学芸術社.
- 松村明編, (1999). 大辞林 (第2版新装版). 東京, 三省堂.
- 内藤寿喜子他 (2000). 新版看護学全書 第13巻 基礎看護学2 (第2版). 東京, メヂカルフレンド社.
- 延近久子 (1995). 臨床実習で学ぶ基礎看護技術. 東京, 照林社.
- 大野晋, 浜西正人 (1981). 角川類語新辞典. 東京, 角川書店.
- 大吉三千代, 東郷美香子, 平松則子 (1997). 写真で見る基礎看護技術. 東京, 照林社.
- 岡本陽子, 荒井博子 (1995). 看護テキスト 基礎看護技術. 東京, 廣川書店.
- 岡崎美智子 (1998). 基礎看護技術 その手順と根拠 第2版. 東京, メヂカルフレンド社.
- 岡崎寿美子 (1999). 基礎看護技術 臨床実習での学習

展開. 東京, 医歯薬出版.

新村出編 (1998). 広辞苑 第5版. 東京, 岩波書店.

白井怜子 (1955). 高等看護学講座 (10) 一般基礎看護法 (第2版). 東京, 医学書院.

杉野佳江 (1998). 標準看護学講座 13巻 基礎看護学2. 東京, 金原出版.

田島圭子 (1996). 看護実践に対応した看護基礎教育—学習者の学習・生活経験を生かした教育の可能性—. 日本看護学教育学会誌, 6 (3), 17-27.

坪井良子, 松田たみ子 (1997). 考える基礎看護技術. 東京, 廣川書店.

内蘭耕二編, 小坂樹徳編 (2002). 看護学大辞典・第5版. 東京, メヂカルフレンド社.

氏家幸子, 阿曾洋子 (2000). 基礎看護技術II (第5版). 東京, 医学書院.

薄井坦子他 (1997). 系統看護学講座 専門2 基礎看護学2 (第12版). 東京, 医学書院.

山崎美恵子, 長戸和子 (2002). クリティカルに考える能力の育成—看護系大学における看護技術教育—. インターナショナルナーシングレビュー, 25 (2), 36-40.

山内豊明 (1998). 可能な限り言語化を試み, 原理・原則の追求を. 看護, 50 (15), 95-101.

山内豊明 (2001). 看護学基礎教育における技術教育とその保証に向けて. *Quality Nursing*, 7 (4), 304-310.

依田和美 (1995). フォトマニュアル基礎看護技術 連続写真で学ぶ実践テクニック. 札幌, 日総研出版.

Exploring the Principle and Fundamental Rules in Teaching: Nursing Techniques of Infection Control

Kayoko HAMADA*

The Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing

Abstract:

This paper tries to systematize the principle and fundamental rules of the techniques of infection control by researching the literature on nursing techniques, which will serve to develop a system of nursing education. According to 17 textbooks on infection controls, the principle of basic nursing techniques of infection control is knowledge based on basic theories of related fields of science. Fundamental rules are those which satisfy necessary conditions related to safety and effectiveness in applying nursing techniques. However, about only a half of the textbooks mention the principle and rules; a few of them misinterpret the principle and rules and give incorrect explanations. Therefore, our next task should be to systematize and describe the principle and rules thoroughly.

Key words:

teaching nursing technique, principle, fundamental rule, infection control

* The Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing